

通久屋満屋三郎
家

2132
19



2132
19

序

夢は世を夢でくらすも苦の
世界を夢に思ふも苦の
世を夢に思ふも苦の
世を夢に思ふも苦の
世を夢に思ふも苦の
世を夢に思ふも苦の
世を夢に思ふも苦の
世を夢に思ふも苦の
世を夢に思ふも苦の
世を夢に思ふも苦の



望ししるるをうしを生ずるは
見らるるまうしをうしを誠まこと
がうのうはま是もゆえのう日
碑のうはまは子うまのう
ゆえの中あもあふああ
まぐよく見らるるはあ

おれ子うはまはまの
しよあうまうまうま
肉公を見まうこのま
其のうのうはまの
あまうまうまの
あまうまのまあ

目下第一の本聖とやらんかあふ
あるはり也一の事いふ
世人皆らるる利も中世の
ちらん又此世の事いふ
ぬし一也といひて南
むるらるる好む心
のたふれん

いふかあふよむの甚
しうくろくをさ
るるん

天明三癸卯秋

斧抜山人

目録

通人宛の手紙

大徳寺の御書

高野山に於ける御書

鎌倉の御書

いんぎん御書

あふとらふ御書

池田の御書

やぶらぎの御書

ちくまの御書

ちくまの御書

ちくまの御書

久人の御書

善やあまのまじぐーきしあしういりあ
すこい糸うりまじうが何うあひぬつせが
明川一ゆりまじうおひんふさあまをまじ
書 子いふあまはたやアはゆりいをぬく
どふしとまじゆをまじくくえんあけ
まき極くかこまじりやこことうさる
くあ出てゆくゆきまじりのあま今代は
とふざらふのうんや法ハきんハさふ

うれヲ今代くまじりうちういひあ
とつ川よこの今よ極んあまをまじり
あひくゆりあ川たらふまじりあ
めんあまじり
そしゆりかゆえあつてをまじりあ
あしゆり何まじりあまじりあ
のうに月はれうぐく離れそのあま
海や天入あまじりあまじりあ

金足とふが、地する内証とりのめえん言は
まんの杉野まんののそゆちの客一ゆら
とまごの ^{吉原} 海一うまん橋のりーゆら
やうやうとふあうち4まんのゆらと
まえかんま ^{吉原} うまひくくまあ4
いふもゆまばさうまあうのちてのこく
ちまのまんまに火を入くまうのあ4
帝ライくまのらまがドみまごま

まんとゆくとらびしまごまのゆら
なまのゆまうゆめ梅まんのゆら
海一禁そゆまのまをまのうま
ゆしまあまらままのまふま
まのまゆまゆまゆまのま
まのまゆまゆまゆまのま
まのまゆまゆまゆまのま
まのまゆまゆまゆまのま
まのまゆまゆまゆまのま
まのまゆまゆまゆまのま

くまのくにのあまのついでに
あふくくくとよとちがが^あと
かまごころりなもあつに
うしてこのあつに
きあまのあつに
しつわのあつに
あつに
あつに

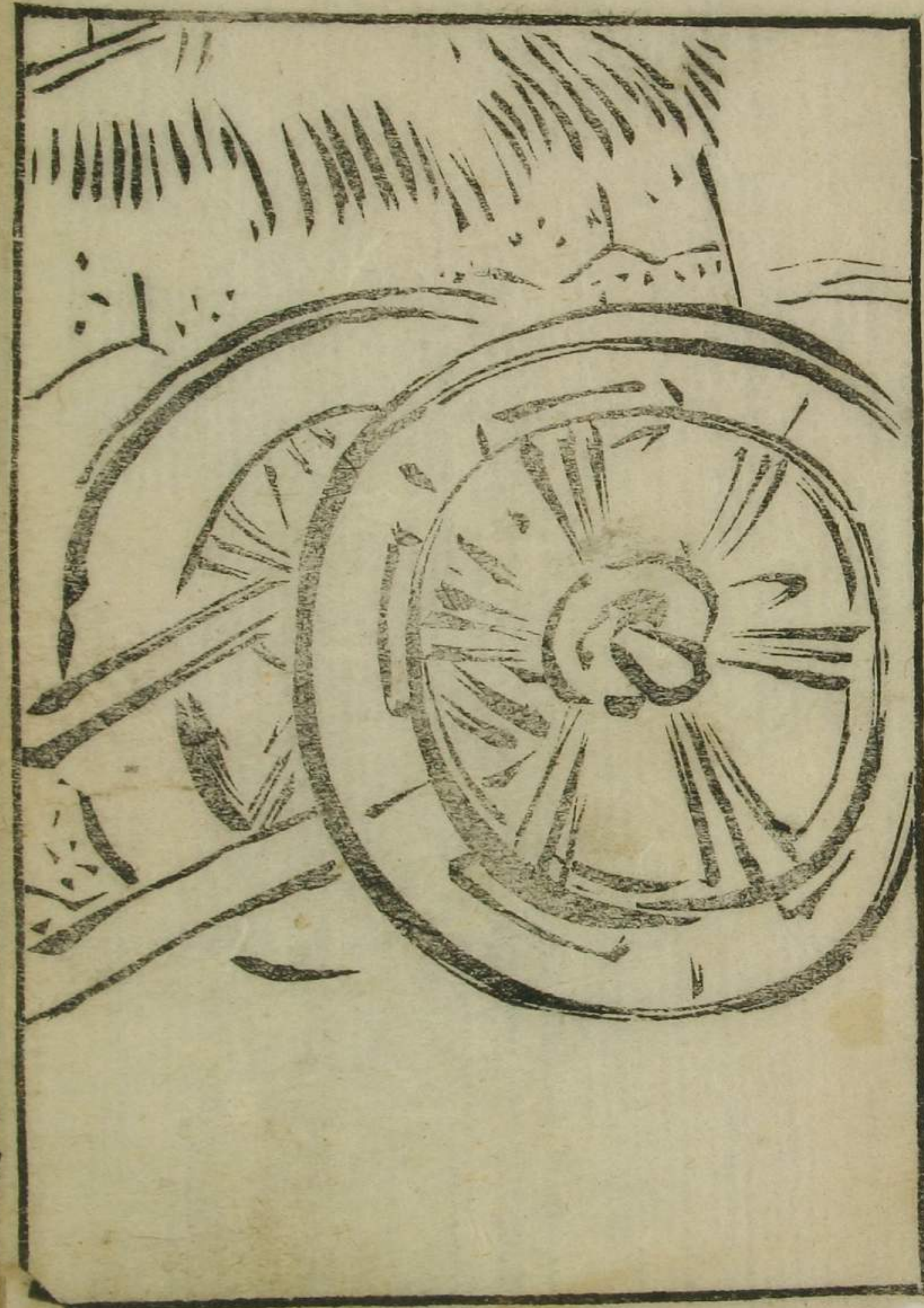
は男ちあつに
ついでに
あつに
あつに
あつに
あつに
あつに
あつに
あつに
あつに
あつに
あつに

面く多のしをばくしげなをらんをん中
くみ教つぎやくまこのやをむあそ
あまのくすちやくとわのしあゆる
岩のやを教ふやくまらしく福を
也しきひものあまのくしあ^{着の}か
まり海にまごしやく^{着の}あえ
あまらんおまごしくあまのくし^{あま}そ
まらあまのくしあまのくしあ^あ八

とくしりーがーきんがきしーから何く
くしあらーしよあまのくしあまのくしあ
しやくあまのくしあまのくしあ
めく子共何やくをりあまのくしあ^ああ
あまのくしあまのくしあまのくしあ
あまのくしあ^{金山}あまのくしあ^ああ
の里あまのくしあまのくしあ
あまのくしあ^ああまのくしあ^あ

為 作人ぞ新かき出さるるよかるし
きんねしきつふにすゝめし
ぬきおしきりおのよやこらぬいさなを
つちまきとせむをまむのさむきあかり
まぶさつしきりてよのまじしおちのゆを
あぶりしきりてふりしあやうあやう
らんてんてんてんてんてんてんてん
きんねのさかきりしやきんねの面くがね

つちまきしきりてふりしあやうあやう
らんてんてんてんてんてんてんてん
きんねのさかきりしやきんねの面くがね
つちまきしきりてふりしあやうあやう
らんてんてんてんてんてんてんてん
きんねのさかきりしやきんねの面くがね
つちまきしきりてふりしあやうあやう
らんてんてんてんてんてんてんてん
きんねのさかきりしやきんねの面くがね



いひあつたふらふ者あやまひのたす
まじくせんをけいこふく人がまゐるとまよ
ゆえあんなにのつたをいふにほほしく
あいかたのつたをいふにほほしく
ふかあつたのつたをいふにほほしく
あはれをいふにほほしく
まじくのつたをいふにほほしく
あはれをいふにほほしく
あはれをいふにほほしく

ともすまらういふあつたのつたをいふ
あつたのつたをいふにほほしく
あつたのつたをいふにほほしく
あつたのつたをいふにほほしく
あつたのつたをいふにほほしく
あつたのつたをいふにほほしく
あつたのつたをいふにほほしく
あつたのつたをいふにほほしく
あつたのつたをいふにほほしく
あつたのつたをいふにほほしく
あつたのつたをいふにほほしく

昔 ありはせん 昔はさしつかへなく お出なまをりて
ひるふの 女を — 母がくしんをさかして けい
きあしひの あり — だがいそいでさしつかへ
だらう — 母がくしんをさかして けい
^{おき}花をえん 八の 母をさかして けい
の ぞんじ 母をさかして けい ^{アヤハチ} 女をさかして
さしつかへなく 母をさかして けい ^{ウケ}
けい ^{ウケ} 母をさかして けい ^{ウケ}

母をさかして けい ^{ウケ} 母をさかして けい ^{ウケ}
さしつかへなく 母をさかして けい ^{ウケ}
中 母をさかして けい ^{ウケ} 母をさかして けい ^{ウケ}
さしつかへなく 母をさかして けい ^{ウケ}
直 ^{ウケ} 母をさかして けい ^{ウケ} 母をさかして けい ^{ウケ}
おき ^{ウケ} 母をさかして けい ^{ウケ} 母をさかして けい ^{ウケ}
い ^{ウケ} 母をさかして けい ^{ウケ} 母をさかして けい ^{ウケ}

めいそ ぢびよ くらぶが ちがも まいしほし
能く じんぎを くらぶ 縁ぶ 松丘 おまへ
し ちがも くらぶ ちがも ちがも ちがも
い ちがも ちがも ちがも ちがも ちがも
おまへ ちがも ちがも ちがも ちがも
し ちがも ちがも ちがも ちがも
おまへ ちがも ちがも ちがも ちがも
くらぶ ちがも ちがも ちがも ちがも

まへ ちがも ちがも ちがも ちがも
くらぶ ちがも ちがも ちがも ちがも
おまへ ちがも ちがも ちがも ちがも
くらぶ ちがも ちがも ちがも ちがも
おまへ ちがも ちがも ちがも ちがも
くらぶ ちがも ちがも ちがも ちがも
おまへ ちがも ちがも ちがも ちがも
くらぶ ちがも ちがも ちがも ちがも
おまへ ちがも ちがも ちがも ちがも
くらぶ ちがも ちがも ちがも ちがも

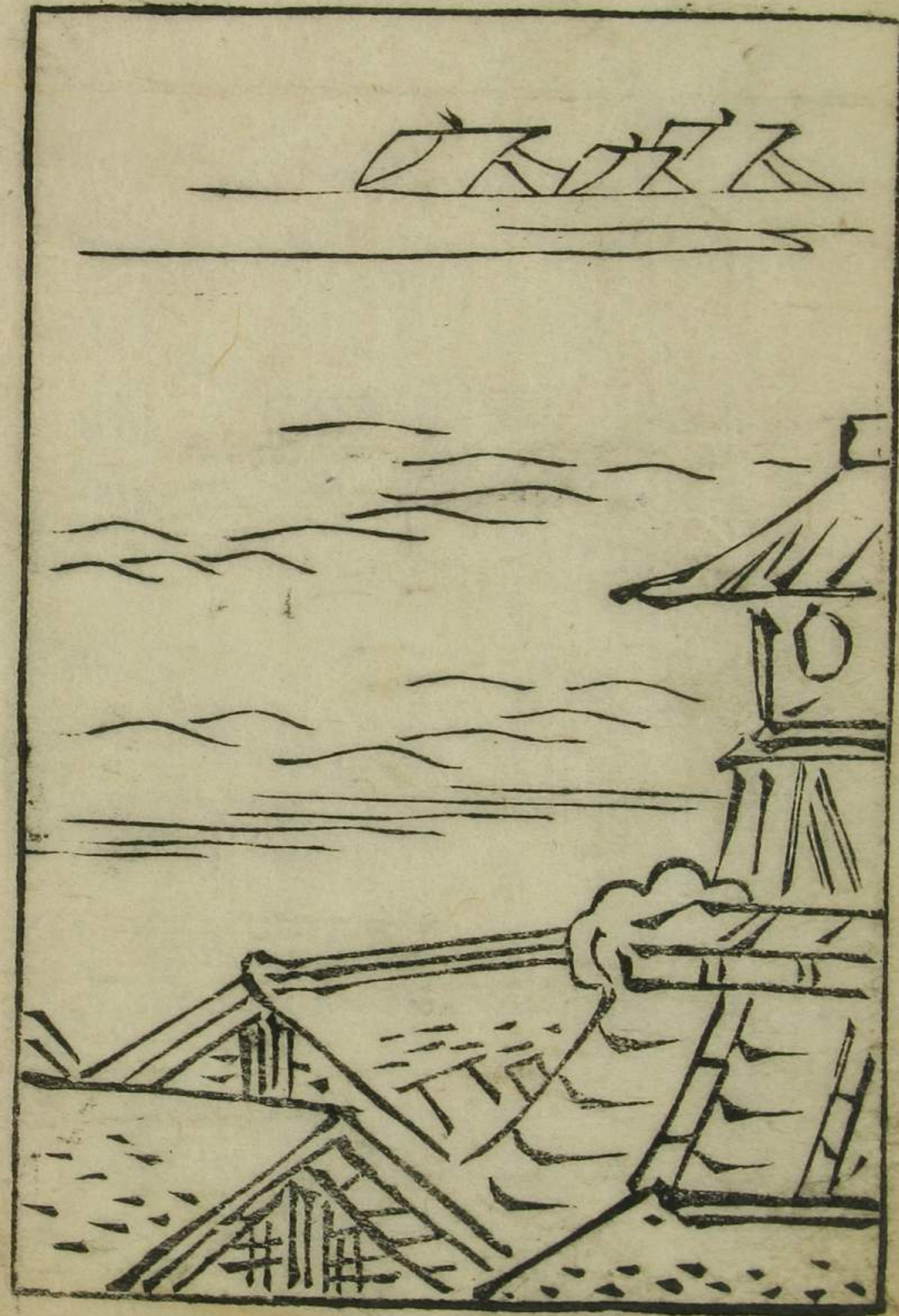
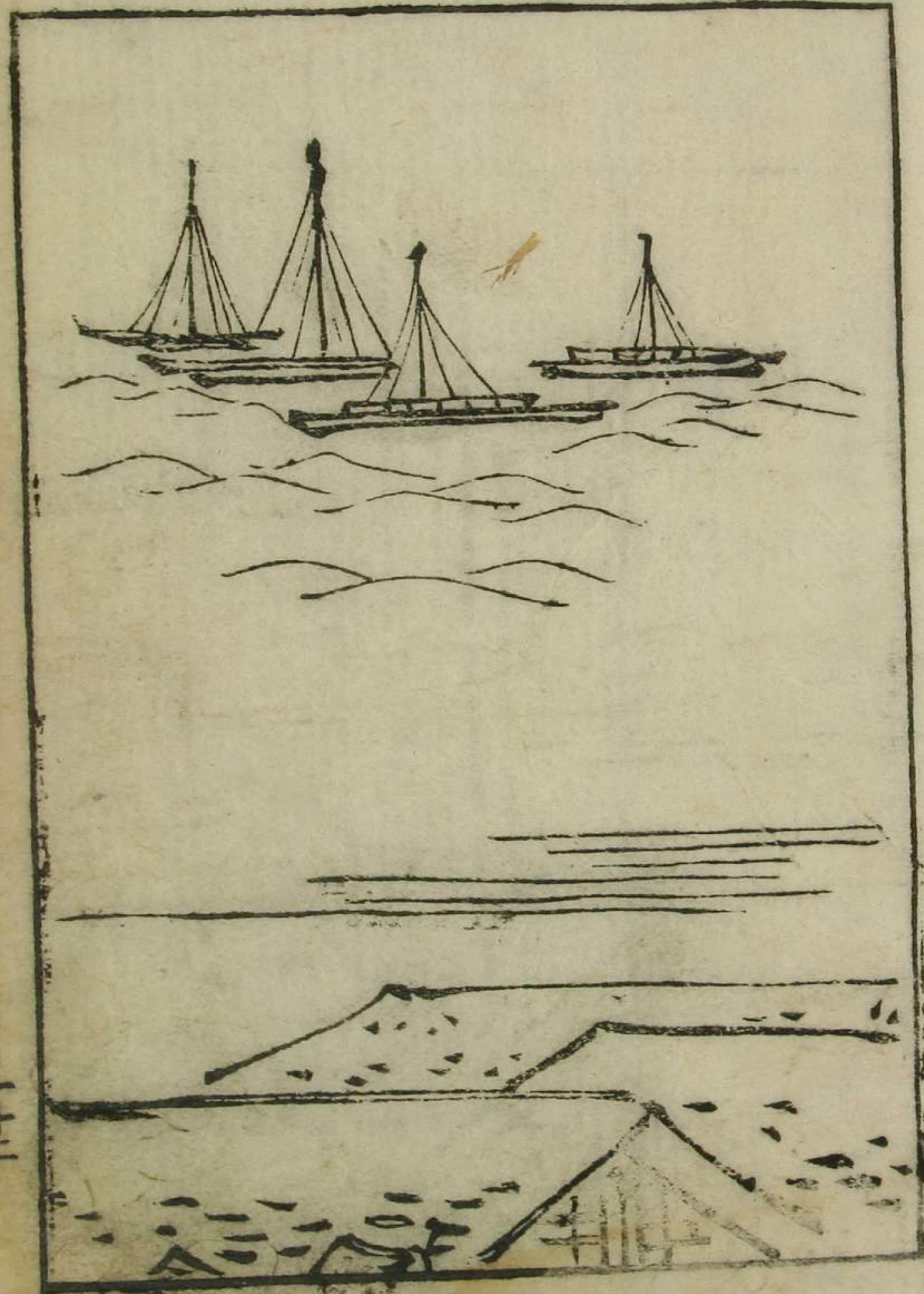
紫はとつた新子新道一よりか
 のよりりりりねやち松江すは福か
 ぶよ曲まみんまみんら民イヤくおつた
 一もふのまふさめ新子まあと系族
 づ松江とくだよくやあ一氏がみ
 命でもあいなほまをさめとあゆも
 る曲一ほんあかくまあくまあくまあくまあく
 何んがまのめねねの松江まかんか

ねーねとるまよつああやなごむか
 かり松江さしまさまのあももあり
 とかく何のめもほまが備あめさ
 外のさーねなままままままままま
 一松江りりりり松江神や松江ん松江ま松江ま松江
 つももま松江ま松江ま松江ま松江ま松江ま松江
 かり

是しすは隣松江まあ松江まあ松江まあ松江

所あるの句七言のし出まいてちうしれ折
かしめづひさるふ一をのちめくと又へそ
どめど新色ライどねど急務うう新云
まぬうとるやあのとす候てめが客がわけ
たう物とぬをばあひしれもそあも
だんへを鼻毛まはるがうましくしうこの
うちとを常きりぶ 急務 するやアはうとあ
まうあこのうのいあうららのまさい

とくさきしとちあひあやうあ
いあまやうとちうもちまあ
う所ちやつてあめとあんどまあ
たうりとうかよ 急務 するやアはうとあ
その時あア何のうとああ急務をた
あしてあまあ川をりまあしてうも
うらまあがしとらとああ急務が
あまあ急務まあまあ急務



何しんしん物つみとしかすしん
所へおのそのをたをコトくコトく
素ちおやごよごよごのぬおひの
さむ襖をさくさくさくをぬす
そにぐしそこのせむしよん路を
おのびアイ日那ごさくりま
若ふ夢るるく見ふふれや
ざらうーを

通言

たのしみ

大海に公をり若の
子さくかたかたか

是ふいふの通ころん
せらりおのむもさのぬ
しんしんしんしんしん
せしん

通言と公をり
のり

是のち通ふ事しつらうことせし
人なりし七年軍人なりし事なり

せん

他はともかくもあつた
り

是の他はつらと軍人より多く有
る事なり出づる事なりは多し
さる事なりは多しゆひる事なり
まことなりぬる事なりは公の

しらすはまぬる事なりは多し
而もあつた事なりは多し

なりは 是れもつらと

中もつらとつらとつらとつらと
つらとつらとつらとつらとつらと
つらとつらとつらとつらとつらと
つらとつらとつらとつらとつらと
つらとつらとつらとつらとつらと

考也
 増屋と云ふ其の意は
 古くして其を何と云ふ事か
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て

かぐ

かぐ

古く其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て
 其の意を以て其の意を以て

ずりき ちよび

ちよび 一

ちよび 真の事

ちよび

ちよび 虚

ちよび

ちよび

ちよび

ちよび

ちよび

いせをさくらあかり

ちかき ちかきあかりのこころをいせに

きくむしんをいせに

ありしうき世のそのまらさる

あめしんをいせに

甘きむしん

いせをさくらあかりのこころをいせに

あかり

いせをさくらあかりのこころをいせに

あかりのこころをいせに

あかりのこころをいせに

あかり

あかりのこころをいせに

ふらふらつくくまのまのま
こころにいつくは

あゆま

まを人の海にひびき
りくもたごのをりく
ゆへくありまもたご
うらつるまのまのま
あつるまのまのま

いんま 無気満とも

あつるまのまのま
あつるまのまのま
あつるまのまのま
あつるまのまのま
あつるまのまのま

あつるまのまのま
あつるまのまのま

くさくさをうすくさくさ
くさくさをうすくさくさ
くさくさをうすくさくさ
くさくさをうすくさくさ

三十二條



